

薬学部 柴田 攻教授が、公益社団法人 日本油化学会 “学会賞”を受賞

2014年1月10日

本学薬学部薬学科の柴田 攻教授が、公益社団法人 日本油化学会“学会賞”受賞が1月10日開催の日本油化学会理事会にて決定しました。尚 授賞式は第60回定時総会（平成26年4月25日、東京）に於いて行われます。

同賞は、油化学分野における技術進歩、学術研究等において顕著な業績または功績のあった個人に対して授与されるものであり、日本油化学会60年間の歴史の中で社団法人（農林水産省および経済産業省の主務官庁）から公益社団法人（内閣府認可）移行後の三人目の受賞者として選定されました。受賞対象となった業績は、「**生体膜関連物質の界面物性及び機能解析に関する研究**」で、Langmuir 単分子膜の研究を中心に、生体関連物質の定量的解析、新規人工肺サーファクタントの創製を目指したものです。更に、界面とそれに関連する溶液物性、特に「界面活性剤の吸着膜に関する新しい概念」へと展開させた基礎研究が挙げられ、界面科学への寄与および発展させた研究内容が高く評価されました。尚、受賞記念講演は、日本油化学会第53年会（札幌：9月9-11日）で予定されています。